

<株式会社エフエム東京 第366回放送番組審議会議事録>

1. 開催年月日:平成22年3月2日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数7名(社外7名 社内0名)

◇出席委員(6名)

子安美知子 委員長	青池 慎一 副委員長
内木文英 委員	渡辺貞夫 委員
内館牧子 委員	横森美奈子 委員

◇欠席委員(1名)

香山リカ 委員

4. 議題:

【番組名】「ROUTE38」(ダイジェスト版)

【放送日時】2009年12月12日(土)15:30~15:55放送分

【番組概要】

「家族の絆」「家族のつながり」をテーマに、毎回父親であるタレントや俳優、ミュージシャンなどをゲストに迎え、「父」として、子供たちに伝えたい想いに迫るとともに、家族のカタチが多様化する今、父親の役割をもう一度考える機会としています。

パーソナリティーは現在38歳、3人の子供を持つミュージシャンの曾我部恵一。仕事盛り、子育て盛りの中、学び、成長し、迷うことを、素直に同じ「父親」のゲストとざっくばらんに語り合います。

難しい「教育論」や「人生論」ではなく、曾我部恵一とゲストの「等身大の子育て」や「子供への思い」、「理想の父親像」を語り合い、土曜日の昼下がりに音楽を交えつつ、同じ父親に「共感」してもらえるようなトークを放送しています。

今回お聴き頂くのは、4人の子供を持つ、タレントやミュージシャンとして幅広く活躍し、また2010年の年明けから2ヶ月間育児休暇を取ったことでも話題になった、つるの剛士さんをゲストにお迎えした回です。

パーソナリティー・曾我部恵一とも歳が近く、同じ「音楽」というフィールドでも活躍している2人が、「子供とのコミュニケーション」のとり方や、男性がとる「育児休暇」について、「父親同士」の本音を語り合います。

また、番組では毎回、曾我部恵一自身が「未来に残したい曲」や、「新旧問わずステキな曲」をテーマに選曲し、番組の最後には生演奏も披露しています。「父親」だけ

ではなく、様々な音楽に触れ独自の感性を持つ、ミュージシャンとしての顔も垣間見ることができます。

< 試聴時間: 約18分 >

**【委員の意見および社側説明】**

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- この番組はトークの面でも選曲の面でもターゲットがみえない。父親のあり方にフォーカスするコンセプトも、パーソナリティーの曾我部恵一の声や語り口もとても良いと思う。ただ、言っていることが面白くない。父親と子どもの日常の垂れ流しで、とんがった部分が無く、ゆるい。父親の育児休暇や理想の父親像の話も、突っ込んで話せば面白くなったと思うが、お互いを褒め合うだけで、言うことも陳腐なら受けも陳腐。TOKYO FM には立地も含めて他局には真似できないウリがあると思う。例えば、ミッドタウンスタジオ、スペイン坂スタジオやOLに人気の皇居ランの拠点としてのジョグリス。誰をターゲットにしてどういうウリを生かしていくのか、ということを考えて、ステーションイメージを大切にしてほしい。とんがっている部分があればいいと思うが、最初から最後までゆるいままだともったいない。
- 番組概要を読んで、期待して聞いたが、内容もさることながら、最初にかかった「ありがとう」という曲も詩の内容が良くなかった。早口はその人の個性で仕方ないと思うが、最後の歌は、その人が見えちゃうようなひどい歌い方だった。この番組を良くする方法はあると思うが、この番組のパーソナリティーとしてあの歌い方はマズイと思った。
- 日本だけではなく、世界的にも家族や父親の従来での在り方が揺らいでいる中、それをテーマにしたのは面白い取り組み。緩やかな表現も一つの手法だと思うが、毎週やるとしたら、リスナーが広がっていかないような印象を受けた。父親同士がお互いの状況や想いを共有する場が無いなかで、このテーマは目の付け所は素晴らしい。ただ、2人の父親の話で終始しており、もっと多くの父親リスナーを巻き込むような、話題の拡がりに欠けているように思う。また、タイトルの「ROUTE38」の38がJFNのネット局数を意味しているのは自己満足にすぎず、もっと内容にリンクした魅力的なタイトルを付けられたはず。テーマは重要であるし、広がっていく可能性がある番組だと思うので、大切に育ててほしい。
- 自分が38歳だった頃の娘とのエピソードを思い出した。人間は何かに触れたときに、自分の体験と結びつけて自分の思いを膨らませる、そういう部分があると思う。

パーソナリティーの喋り方は上手だとは思わないが、内容の中に自分の体験とリンクして、その当時の思い出や感情を思い起こすような要素があったと思う。

- 着眼点が素晴らしい。妻が夫に聞かせたいと思うような番組だと思った。夫婦で聞くというシチュエーションを想定して聞いていた。家族のあり方が多様化し、昔よりも親が正しい親のあり方を悩む時代に、接点を持ちにくい父親同士が話すという機会を番組にするのは良いことだと思う。カジュアルトークスタイルで、人の話を横で聞いているような印象を受ける空気感は今の若い世代に馴染むと思う。日常の些細なことで悩み、なかなかジャッジできない親は、こういう世間話からヒントを得たりする。彼らにとって気になるキーワードが出てきて、ほっとするようなことがあれば、この番組は成功していると思う。また、テレビだと、出演者の芸能人な部分が見えてしまい、受け手に自分の生活とのギャップを感じさせてしまい、本質が伝わりにくい。音声だけだと、本質だけが伝わる。この面においてもいい番組だと思う。
- 今後どのように育っていく番組なのか疑問に思った。日常的なレベルで、井戸端会議的に、理想の姿を追うのはいいが、そうではない多角的な視点も必要だと思った。父親になることは簡単、父親であることは難しい。というドイツの格言があるが、自分がどんな父親であるか、自己観察して振り返るきっかけとなるような深みがあればもっといい番組になると思った。
- 今まで、子煩悩なゲストが多かったので、議論が深まることが無かったのかもしれない。もう少し、多角的な深みをだしていくべく演出を研究していきたい。

#### 5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

#### 6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「リサ・ステッグマイヤーのクロノス」  
3月26日(金) 5:00～8:30 放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

#### 7. その他

次回審議会 4月6日(火)に開催することを決めた。

以上